

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.3 (1964. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640301--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田学会雑誌

1964年 3月号

論 説

戦後世界経済の諸特徴 山 本 登 1

寡占企業間協調の基本的問題点 北 原 勇 13
——独占価格研究第二篇 独占・寡占下の
価格設定と価格の運動(二)——

研究ノート

独占資本形成期における
労働組合運動研究をめぐる若干の問題 飯 田 鼎 58
——社会政策学会第二八回大会報告によせて——

書 評

ハーリヒ『カロリング時代のマンヌス』 渡 辺 國 廣 67

南原 繁・大内兵衛
大塚久雄他監修・編纂
『矢内原忠雄全集』(経済学篇, 第1~5卷) 中 村 勝 己 72

新刊紹介

57 卷 **3** 号

昭和39年2月10日
392625
年2月10日
月1324
日11
発行所
三田学会雑誌
郵政省
第三種郵便物
認可
毎月1日
発行

三田学会雑誌

昭和三十九年二月号

定価 金二二〇円 (送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 57, No. 2

February, 1964

CONTENTS

Articles

A Note on the Demand of the Firm for Credit *T. Murai* 1

An Evaluation of Japanese Corporation
Income Tax (I) *S. Furuta* 14

Malthus as a Bullionist
——In Comparison with Ricardo—— *M. Nakanishi* 35

Note

The Planning and the Principle of International
Division of Labour in Economic Integration
(especially in reference to EEC) *H. Fukami* 60

Book Reviews

Factors Affecting the Stock Market,
tran. by Toyoji Kotake *H. Iida* 75

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 120 yen

新刊紹介

川田 侃著『帝国主義と権力政治』	矢内原 勝	81
佐伯尚美著『日本農業金融史論』	高山 隆三	82
渡辺佐平著『現代の金融政策』	飯田 裕康	83

戦後世界経済の諸特徴

山 本 登

第二次世界大戦後、早くも約二〇年の歳月が経過した。この期間に世界経済は、構造的にかなりの変容を示してきたと見られる。周知の如く、戦争直後の時期において、アメリカは混乱した世界経済の收拾者、いなむしろ直接的な救済者として抬頭した。事実、アメリカはこの時期を含めて、世界経済の復興期を通じ、文字通りその主導者としての役割を果たしたといっても過言ではない。

その間、米・ソの対立を両極として、世界は東西両陣営に分裂し、世界市場もまた資本主義世界市場と社会主義市場とに二分された。この場合にもアメリカは、いわゆる西方・自由主義陣営の旗手として、その指導的地位を保持した。これに対し、ソ連邦を盟主とする東方陣営は、その衛星諸国との結合の強化を通じて、いわゆる共産圏勢力の確立と拡大に努力した。

しかし世界経済の再建が一応完了の域に達するに伴い、世界の政治・経済地図は、新たな勢力分布図によって描き改めら